広島アセアン協会

Hiroshima ASEAN Association

国際機関日本アセアンセンター 事務総長
平林　国彦　氏

～日本アセアン友好協力 50 周年に向けて～

2022 年度アセアン通信 第 1 号

平林　国彦氏のプロファイル

平林国彦

（ひらばやし・くにひこ）

国際機関 日本アセアンセンター　事務総長

1958 年、長野県生まれ。筑波大学医学専門学群卒。医学博士（筑波大学）。大学院終了後、約 10 年間、途上国の病院での技術指導などに従事。2003 年より 18 年以上に亘り国連児童基金（UNICEF）に勤務。アフガニスタン、レバノン、東京事務所、インド事務所副代表を経て 2010 年には東京事務所代表に就任。前役職は、UNICEF 東アジア・東南アジア・太平洋地域事務所・保健・HIV 部長。2021 年 9 月に、国際機関日本アセアンセンター 事務総長に就任。

職歴：

1984 年 4 月～1990 年 3 月：	筑波大学附属病院　心臓外科医　兼　チーフレジデント
1994 年 3 月～1997 年 5 月：	厚生労働省(国立国際医療研究センター）技術顧問　兼　医務官
1997 年 5 月～1999 年 7 月：	国際協力事業団（JICA、現国際協力機構） インドネシア事業　チーフ・アドバイザー
1999 年 10 月～2000 年 10 月：	Management Sciences for Health（米国・ボストン） シニア・リサーチ・フェロー
2000 年 10 月～2003 年 5 月：	厚生労働省(国立国際医療研究センター）技術顧問　兼　医務官
2003 年 5 月～2004 年 1 月：	UNICEF アフガニスタン事務所　保健副大臣シニア・アドバイザー
2004 年 1 月～2006 年 8 月：	UNICEF アフガニスタン事務所　保健栄養チーフ
2006 年 8 月～2006 年 10 月：	UNICEF レバノン事務所　保健栄養部臨時チーフ
2006 年 10 月～2008 年 7 月：	UNICEF 東京事務所　シニア・プログラム・オフィサー
2008 年 7 月～2010 年 4 月：	UNICEF インド事務所　副代表
2010 年 4 月～2016 年 5 月：	UNICEF 東京事務所代表
2016 年 4 月～2021 年 8 月：	東アジア・東南アジア・太平洋地域事務所・保健・HIV 部長
2021 年 9 月～：	国際機関日本アセアンセンター　事務総長

学歴：

1984 年 3 月：	筑波大学医学専門学群卒
1994 年 3 月：	筑波大学大学院修了、医学博士号取得

「日本アセアン友好協力 50 周年に向けて」

平林　国彦

1. 日アセアン関係の今、そして 2023 年

今年の 5 月、「日本のアセアン外交、ピンチ」、「アセアンが選ぶ重要パートナー1 位は中国、日本抜いて。07 年以来」などの、刺激的な見出しが、インターネットや新聞紙上を賑わしました。外務省が、今年 5 月に公開した海外対日世論調査において、ミャンマーを除くアセアン加盟 9 か国、18 歳から 59 歳の男女、それぞれ 300 名に対して、今後の重要なパートナーとなる国や機関について聞いたところ、中国が 48％で 1 位、日本は 43％で 2 位という結果に、驚きと警戒心を持って反応したものだと考えられます。

また、シンガポールのシンクタンク、ISEAS ユソフ・イシャク研究所が、アセアン 10 カ国の政治家や研究者、企業家、メディア関係者に対して毎年行っている調査のレポート（2022 年） では、アセアンへの経済的影響力が最も高い国・地域について「日本」と答えた人が全体の 2.6%と、前年の 4.1%から下落し、政治・戦略的影響力でも 1.4%と、同 3.5%から大きく下がったという報告をしていました。他方、経済的影響力では「中国が最大」との回答が前年比 0.8 ポイント増の 76.7%と圧倒的な存在感を示し、2 位のアメリカの 9.8%を大きく引き離しました。政治・戦略的影響力でもトップは中国で、2 番目のアメリカの 2 倍以上という結果でした。

これらの限られた調査結果が示す事実だけでも、日本とアセアンの関係性・双方の立場が、この 50 年の間に、著しく変化しており、2023 年は「日本がアセアンにとって最適で信頼できる真のパートナーであることを

示す」、戦略的に大変重要な年であることがわかります。これに加え、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大（以下パンデミック）に伴う人の交流が激減する一方で、気候変動や拡大する格差などの社会課題克服や行動への関心高まり、他方で、ロシアによるウクライナ侵攻や、米中対立の先鋭化により国際秩序が大きく揺らぐなど、日・アセアン友好協力 50 周年を迎える 2023 年は、まさに歴史の転換期の真っただ中にあると考えます。

2. ダイナミックに変化するアセアンとの貿易・投資・経済関係性

パンデミック前の 2018 年には、約 13,000 社の日系企業がアセアン諸国で事業を展開し 、アセアン諸国に暮らす日本人は 20 万人を超えていました。また、アセアン事務局による 2021 年貿易統計集（ASEAN Statistical Yearbook 2021）によれば、日本のアセアン諸国との貿易額（モノの輸出＋輸入）は、2019 年には 2260 億ドル（2019 年平均為替レート計算 でおよそ２４６兆円）．パンデミックの影響を受けていた 2020 年でも 1949 億ドル（2020 年平均為替のレートで 208 兆円）にのぼります。

かつては日本がアセアン諸国から原材料や農水産品を輸入し、製品をアセアン諸国へ輸出するという構造でしたが、その傾向は変わってきました。1980 年に輸入額の 10%にも満たなかった日本のアセアン諸国からの製品輸入比率は、2018 年には電気機器、木製品、衣類、服飾品などを中心に、約 67%を占めるまでになっており、貿易構造も高度化しています。また、輸出・輸入双方において、モノの貿易だけでなく、サービス貿易も年々増加しています。また、財務省・日本銀行の本邦対外資産・負債残務高統計か

らジェトロが作成した資料をもとに計算すると、2021年末における日本の対アセアン直接投資残高（資産）は、前年比61.4%増の292億4千万ドル（2021年の平均為替レートで3兆2100億円）となっています。

しかし、アセアン側からみたモノの輸入総額のうち、2011年には11.1%を占めていた日本は、2020年には7.8%と低下し、輸出先としては、2011年には10.3%を占めていた日本は、2020年には、7.2%と同様に低下しています。他方、2011年にはアセアン側からみたモノの輸入総額の13.4%を占めていた中国は、2020年には21.2%と、およそ1.6倍となり、モノの輸出先としても、2011年に総額の11.3%であった中国は、2020年には15.7%と増加しています。また中国にとってもアセアンの重要性が著しく増加しており、2020年以降、貿易総額ベースで、中国にとってアセアンが最大貿易相手となったとの報告があります。

3. 世界の成長の中心地として変貌するアセアン

パンデミックの影響により、2019年のレベルから減少したものの、アセアンの2020年の域内名目ＧＤＰ総額は、およそ3兆ドル（2020年の平均為替レートで315兆円）で、日本の2020年の名目ＧＤＰのおよそ60%にあたり、アセアンを一国とみなした場合、アメリカ、中国、日本、ドイツに次いで、世界で第5位にあたります。また、アジア開発銀行による2022年のGDP成長率予測は4.9%、2023年には5.2%と、アセアンは、世界の成長センターとして、今後も高い潜在能力を維持すると予想されています。さらに、2030年には、アセアンの域内名目ＧＤＰ総額は、日本の名目ＧＤ

Ｐに並ぶ、あるいは追い越すだろう、と予測する専門家もいます。

このような堅調な経済成長は、購買力が旺盛な多くの中間層を形成する結果にもつながっており、ある調査会社の推計によれば、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナムの 5 か国だけでも、2020 年の時点で 5 か国合計人口のおよそ 62%にあたる 2 億 9 千万人もの中間層が存在する、と報告されています 。その旺盛な消費ニーズを反映し、アセアンは急速に生産拠点から消費地へと変貌しています。私自身、昨年までバンコクで 5 年間生活しましたが、Grab や Lazada などの現地の実情にあった E-commerce の普及により、飛躍的に商品の選択の多様性や、また物流から購入までの利便性が高まり、それとともに消費の量と質が大幅に変わったと感じました。また、電子決済が一般的になったことで、滞在後半の 2 年は、ATM で現金を引き出す必要性がほとんどなくなりました。

さらに、多くのアジアの新興国では、都市群の発達が、経済成長に大きく貢献している と指摘されており、アセアンでは、そのペースに各国間の差はあるものの、多くの国で都市化が着実に進んでおり、ブルネイ、マレーシア、インドネシア、タイでは都市部に住む人口が既に 50%を超えています 。そして、都市戦略研究所による 2021 年世界の都市総合力ランキング によれば、環境や交通・居住環境なども考慮した総合ランキングで、東京が 3 位である一方、シンガポールは 5 位、バンコクは大阪（36 位）より高い 35 位、クアラルンプールは福岡（42 位）より高い 39 位に位置しており、日本の主要都市と変わらない豊かさを享受する都市群が、既にあり、今後も出現することが予想されます。

4. 高まるアセアンの地政学的な重要性

このところ、ニュースなどで、「自由で開かれたインド太平洋 」という言葉を耳にする機会が増えました。これは、2016 年、日本以外の地として、初めてケニアで開催された第 6 回アフリカ開発会議（ＴＩＣＡＤ　ＶＩ）で、安倍元首相により対外発表された概念・戦略が基礎になっています。当時、インド太平洋は「アジア太平洋」と比べて馴染みある地域概念ではありませんでした。しかし、インド・インドネシアなどの地域新興国の経済的な台頭に伴う戦略的重要性、中国の軍事的台頭とこの地域への海洋進出への懸念など、米中のスーパーパワーや、日本・インド・韓国・オーストラリアなどのミドルパワー の関与が積極的なインド太平洋地域は、21 世紀におけるグローバル競争の中心舞台となりつつあり、太平洋とインド洋を経済・安全保障の両面から連結することの意義などが、より一層重要視されてきています。そして、アセアンは、この戦略的に重要なインド太平洋地域の両方に、そして地理的にまさに中心に位置しています。

この動きに対応する形で、共同体としてのアセアンは、2019 年 6 月に「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック （AOIP ）」を発表しました。この声明の中で、アセアンは「今後も利益が対立する戦略的環境における誠実な仲介人としての任務を全うする」と述べています。このことは、アセアンの支持と参加が、インド太平洋諸国の平和と繁栄を促進のために不可欠である、ということを示唆しており、アセアンの日本および世界にとっての地政学的重要性は、今後、ますます高まっていくものと考えます。

5. 新たな、そして共通の課題の出現

持続的に経済成長をもたらすためには、経済・社会的なインフラ・資本・制度を整備するばかりでなく、人的資本への適切かつ不断の投資が必要です。例えば、両親が自分の子どもたちをより愛情を持って健康に育て、そして質の高い教育を家庭・学校などで与えることや、女性を含むより多くの、そして質の高い労働力が労働市場に継続して供給されること、また少子化と適切な雇用創出などにより相対的な従属人口指数が低下する、などの条件が必要だと考えます。

例えば、2021 年のアセアン事務局の統計集 によれば、2020 年の域内人口は、およそ 6 億 6 千万人、ＥＵの人口（およそ 4 億 4 千万人）を超え、そのうち 20 歳未満の人口が占める割合は 33.1% と先進各国に比し、若者が多い状況である一方で、65 歳以上のシニア人口も 7.2%、そして今後も割合の増加が見込まれています。

経済成長にはいくつかの複雑で多層的な要因がありますが、人口に関して言えば、その国の人口規模よりは、人口動態の変化が、経済成長に正や負の影響を与えることが知られています 。アセアンの従属人口指数の推移を見ると、タイは 2010 年から上昇に転じ、2020 年では 41、ベトナムは 2014 年から上昇し、2020 年には 45 となっており、これらの国では、人口ボーナスの時期が終わりに近づいていることがわかります。

社会的な格差に関しては、アセアンでは男性は女性に比べ、およそ 11.5 倍雇用されているとの報告があります 。また、パンデミックの影響を受け、2020 年の統計では、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、

タイ、シンガポールでは、15 歳から 24 歳の若者の失業率が上昇し、特にマレーシア、タイ、シンガポールでは女性の若者の失業率が男性より有意に高い結果が認められます。

このような社会的課題を鑑み、アセアンのように、急速に都市化し、多くの産業やサービスにおいてデジタル化とスマート化 が進む地域で、雇用を確保し、かつ適切なサービスを受けるためには、産業側のデジタル革命ばかりでなく、時代の変化に適応できるよう、あらゆる世代や地域、特に女性や若者、障がい者、そしてシニア世代に対する公的・非公的機関による技術・実践教育の拡大、特にデジタル技術とデジタルリタラシー の包摂的な普及と向上を目指す必要性があることを意味します。これは、日本にとっても共通の課題です。

日本が抱える少子高齢化は、確かに国家にとって非常に重要で困難な課題です。そして、アセアンを含む多くの国が、この課題に直面しています。高齢者人口が増えると、確かに医療サービスのニーズや、年金をはじめとする各種の持続可能な福祉サービスの整備が必要です。これを問題としてだけとらえるのではなく、同時に包摂的な社会や、いわゆるアクティブエイジング への転換の好機としてとらえることができれば、日本が、アセアンや世界にとって「さきがけ・先駆者の国」になれるのではないかと考えます。

6. 2023 年に向けて

このような節目に、私ども日本アセアンセンターのスタッフは、センター加盟国の人々と緊密に仕事をしている組織・人間として、日本とアセアンの人々の最善の利益のために、何をすべきなのか、いつも自らに問いかけています。

まず、アセアンとの関係ですが、アセアンは、EU と異なり、各国の主権が維持・尊重されている共同体であり、その意志決定は原則として協議とコンセンサスに基づいて行われます。アセアンは、地域の戦略的に重要な課題に対しては、共同体としての一体性・中心性 を対外的に示しつつ、各国は、独自のバランス外交、経済協力戦略を維持しています。また、各国にそれぞれ異なった、解決すべき政治的・社会的課題も数多く存在します。そのため、各加盟国の実情と必要性にあった、きめ細かい 2 国間の関係構築の深化を目指すと同時に、共同体としてのアセアンの優先課題を積極的にサポートする、重層的で、かつ政府・地方自治体・民間・個人それぞれの特性・独自性を活かした多角的・多面的なアプローチが必要だと考えます。私どもは、その一翼を担うべく、広島アセアン協会の皆様のように、地域で大きな貢献されている方々と、より協働して活動したいと考えています。

そして、前述した外務省のアセアンにおける対日世論調査ですが、調査対象が 18 歳から 59 歳までとなっています。年齢別のデータは公表されていませんが、おそらく若い世代が、製品や音楽・ビデオなど、いわゆるソフトパワーへの接触を通じ、中国や韓国など他のアクターとの交流や理解

の機会が増加したことが、日本の影響力の低下に大きく影響している、と推察しています。そのため、センターでは、互いの理解と信頼関係に基づいた日本・アセアン関係の発展のため、日本とアセアンの若い世代間のリーダーシップ交流や人材育成を2023年に向けた活動の一つの柱にしたいと考えています。例えば、交流ではZ-世代 の若手起業家や、女性企業家、ジャーナリスト、高校生、あるいは若手外交官などを、また人材育成では、中小企業の実践的なマネージャーなどを対象として念頭においています。

45 年前、福田赳夫元総理大臣がマニラでのスピーチ、のちに福田ドクトリンと呼ばれる「わが国の東南アジア政策」で、わが国は、東南アジア諸国と「対等なパートナー 」の立場をとる、と強調されました。偏狭な利己主義や覇権主義が顕在化している今、私どもは、人々の多様性を互いに尊重し、地域・国境を越えて結びつき、結束する、真の「対等なパートナー」としての役割を担えるよう、誠心誠意努力したいと考えています。

日本アセアンセンターのご紹介

ASEAN（東南アジア諸国連合）について楽しく学ぼう！

ASEANPEDIA（アセアンペディア）ウェブサイトがリニューアル：加盟国紹介動画など新コンテンツも追加

国際機関日本アセアンセンター(所在地：東京都港区、事務総長：平林国彦 以下、センター)は、ASEAN[1]についてあらゆる角度から紹介するウェブサイト、ASEANPEDIA（アセアンペディア）をリニューアルし、公開しました。

ASEANPEDIAウェブサイトURL: https://aseanpedia.asean.or.jp/

ASEANPEDIAとは

センターが2016年に開設した、主に中学生・高校生を対象としたASEANについて楽しく学ぶためのウェブサイトです。ASEAN加盟各国の基礎情報のほかに、世界遺産、レシピ、民族衣装、スポーツ、動物など親しみやすいトピックも盛り込んでいます。また、日本とASEAN諸国の長年にわたる交流史年表や、貿易・投資・観光・人物交流を始めとした様々なテーマについて数字を使いながら解説するコラムなど、多様な情報をご提供しつつ、楽しみながら学んでいただける内容となっています。同サイトの冊子版「ASEANPEDIA～ASEANまるわかり～」[2]は、2015年発行以来、6万部以上配布されおり、日本全国のたくさんの中学校・高等学校で教材としてもご活用頂いています。

新コンテンツも追加

リニューアルに伴い、以下、５つの新コンテンツが追加されました。

◆ 動画シリーズ「大使館で知る！ASEAN10カ国どんなところ？」

駐日ASEAN各国大使館とともに制作するシリーズで、各国の簡単な概要や日本との関係、代表的な伝統文化、言語などを、約5分の動画で学ぶことができます。現在ブルネイ・ダルサラーム、インドネシア、フィリピン、ベトナムの動画をご覧頂くことができます。他の国の動画も順次追加予定です。

◆ 地域に暮らす多様な民族の人々をイラストで見る「ASEANの人々」

ASEAN地域は6億5千万人以上の人口を抱え、多様な民族が暮らしています。多様なASEANの人々や代表的な民族衣装をオリジナルのイラストで紹介します。

◆ 動画「ここにもそこにもASEAN」

ある日本の中学生の生活を通して、身近にあるASEAN諸国とのかかわりを見ながら学べるショートアニメーションです。

◆ メコン占い

ASEAN地域の中でもメコン地域（カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナム）で盛んに行われている曜日占いです。

◆ ASEANクイズ

ASEANに関するクイズです。答えは全てASEANPEDIAウェブサイト内にあります。

本リリースに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

＜＜国際機関日本アセアンセンター＞＞

正式名称：東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター

ASEAN10ヵ国政府と日本政府により1981年に設立。貿易・投資・観光・人物交流の 4 分野を軸に、ASEAN諸国から日本への輸出の促進、日本とASEAN諸国間の直接投資、観光及び人物交流の促進を通して、日本とASEAN諸国との関係促進に貢献する国際機関です。

URL：https://www.asean.or.jp/ja/

ASEAN-JAPAN CENTRE
アセアン ホール
ASEAN-Japan Centre

特別寄稿　アセアン通信第１号

発行日：2022 年 7 月 21 日
発行編集：広島アセアン協会
編集委員：船 本 聰 武
槙 埜 秀 樹
大 原 智 美

広島アセアン協会 事務局
TEL：　082-436-3600
FAX：　082-497-4200
E-mail：jimu@hiroshima-asean.org

広島アセアン協会　検索

無断複製禁止